

出世魚の話の他諸々の話題

JJ1SXA/池

出世魚と呼ばれるブリは、モジャコ→ワカシ→イナダ→ワラサ→ハマチ等と成長するにつれて呼び名が変る、江戸時代までは武士や学者には元服および出世などに際し改名する慣習があった、その慣習になぞらえ「成長に伴って出世するように名称が変わる魚」を出世魚と呼び、「縁起が良い魚」と解釈されて門出を祝う席など祝宴の料理に好んで使われるようだ。

出世魚では無いが、日本人の三大死因である、がん・脳血管疾患・心疾患、更に脳血管疾患や心疾患の危険因子となる動脈硬化症・糖尿病・高血圧症・脂質異常症などはいずれも生活習慣病であるとされていますが、過去には、がん、心疾患、脳血管疾患は「**老人病**」と言われ運命的な響きを漂わせていたが、これが「**成人病**」と言われるようになった、そして現在では「**生活習慣病**」となってこれが定着している。

やがてはここから「病」も取れて、ただの生活習慣と言われるようになるのかも知れない、老いと病を人々の目の中からはるか遠くに追いやっているかのごとくである。

今、人生100年時代といわれるが、一方で75歳になると、偏見に満ちたような、ありがたいも「後期高齢者」なる命名がされる。

12月3日(2020年)の読売新聞夕刊の記事中に「AYA世代」という言葉を見つけました、AYAとは、「Adolescent and Young Adult(思春期や若年成人)」の略で、一般的に15歳から39歳までの年齢層の人を指し、がん医療において用いられています。

AYA世代は、学業、就職、恋愛、結婚、出産など、様々なライフイベントが集中する時期です、同世代の人たちが学校生活や就職活動に励み、恋愛や友人との付き合いを楽しみ中、「がん」という病気をかかえ、将来に対する不安や孤独を感じている人も少なくありません、そして、AYA世代のがん患者さんには、周囲の方を悲しませたくない、心配をかけたくない、自分の弱さを見られたくないという思いから、一人で悩みや不安を抱え込んでしまう方が多く、治療以外のことを誰に相談して良いかわからず、解決できずにいる方も多くいるようです。

一時期、アラフォー(around forty…40歳前後の人)という言葉が流行った?が、独身女性が妊娠・出産を望むぎりぎりの年齢ということで、結婚願望が急浮上するようだ。

法の世界でも、2008年3月31日までは、高齢者の保健に関する法律である「**老人保健法**」という法律があったが、この法律も、「老」ないしは「老人」という語句が含まれているのはイメージが悪いなどの理由により、同年4月1日から「**高齢者の医療の確保に関する法律**」と改称されてしまったくらいです。

シニアとは、いったい何歳から何歳までを指す言葉なのでしょう?実際のところ、シニアの法的な定義というものは存在しません。

各分野の研究者や各種団体などにおいても、シニアの年齢区分を40歳以上としていたり、65歳以上としていたり様々です。

ただ最近では、シニアとは「おおよそ50歳以上の世代」を指すことが増えてきたようです、たとえば映画や旅行などの各種割引特典や、ゴルフやスキーなどのスポーツの世界などでは、50歳以上をシニアと区分する例が多いようです。

厚生労働省の「年金財政検証」その他各種の統計においても、日本人の将来的な平均寿命はおおよそ90歳に達すると予測しています。

私は、40歳になったばかりの頃は、20年も先の、「還暦(60歳)」は遠い世界に思っていた、50歳にまだ間がある頃、6歳年上の、故 JH1QIQ 黒須 OM が定年の話をするのを、まるで別世界の話かと思っていたが、20年はそれほど長い年月では無かった。

そして、次の10年もあつという間で、中国の唐時代の詩人、杜甫の詩の一節である「人生七十古来稀なり」に由来する「古希(70歳)」はどうに過ぎたかと思っていたら、「喜寿(77歳)」も「傘寿(80歳)」も直ぐに来た、それどころか、「米寿(88歳)」が待ち構える歳になった、とは言ってもまだ3年も先だ、まあ持たないだろうな～

人生100年時代と言うが、100歳になっても肉体は健康、ボケもせず、認知症にもならずなら長生きも良いが、そうで無いなら、早く店仕舞いたいものだ、240の多くのOMさん達が待ち侘びている事だろう。

直近では、240の創世期から、共に苦勞し、共に楽しんできた、7歳も年下の JM1SZI 半田 OM も黄泉の国へ旅立ってしまった、今一度ゆっくり杯を交わしたかったが…ご冥福を祈るのみ、半田 OM は、九州の電波専門校の卒業生で exJA6APH だが、会社内の電話機の配線専門の仕事をしていた、今のように携帯電話が発達する前は、社内の机配置換えと共に電話機の移動・配線があり、それ専門で大ベテランだった、感心した作業の一例で電線の皮むきをするのにペンチやニッパー等は使わず、洋裁用の裁ちバサミで、器用に電線の皮むきをしていて、これ(裁ちバサミ)が一番、作業も早いと自慢していたが確かに見事なものだった。

また一方では、電鍵は「縦ぶれ」、それ以外は邪道とも言っていたが、きれいな符号を打っていたのを思い出す、ただ、「縦ぶれ」に拘るのも良いが、昔と違って今の時代は、エレキーはおろか、パソコンで CW が当たり前になってきたことを理解できないと、浦島太郎扱いになるよと忠告し笑いあった。

CW 談義は色々やったが、その内の一つ、半田さんのように、縦ぶれを基礎から叩き込まれた人は良いが、基礎のできていない人が打つ縦ぶれ CW は聞いていられないという意見は一致した、昔、基礎ができていたプロの通信士が、わざと崩した符号で特色を出し、今打っているのは誰だとわかるようにやっていた時代と異なり、崩れた符号しか打てない癖に、特色を出しているのだと勘違いをしている局も多く、困るねえと意見は一致した。

240で知り合った頃のOMはまだ独身だった、酒好き、CW好き、話は合った、思い出は尽きない、先に逝ったのは卑怯だぞ！もう一度この世に引き返せ！と言っても絶対無理だよな、早く逝くつもりだが今しばし待たれよ！(悲しい独り言だった hi)

救いは、一人っ子のお嬢さんが結婚したことだ、娘は可愛くてしょうが無かった、忘年会や関東モービルハム同好会にも連れて来た、私にもなついていた可愛い子だ。